

かるがも



第29号

発行所 千葉県こども病院

〒266-0007 千葉市緑区辺田町579-1

TEL 043-292-2111

FAX 043-292-3815

<http://www.kodomo.umin.jp/>

新年度を迎えた看護局の取り組み 新人看護職員研修

千葉県こども病院看護局の継続教育研修は、千葉県立病院のクリニカルラダーをもとに、こども病院のクリニカルラダーを作成し、小児看護に必要な知識・技術が習得できることを目的に、レベルⅠ（新人）～レベルⅣ（ジェネラリスト）まで幅広く研修を企画し実施しています。平成21年12月、法改正に伴い新人看護職員の臨床研修等の義務化により、『新人看護職員研修ガイドライン』が提示されました。当院のレベルⅠの研修プログラムは、ガイドラインの基本的な考え方が網羅されており、ガイドラインの達成目標に沿った内容も、当院の技術チェックリストの中に組み込まれていました。このチェックリストを用いて自己評価・他者評価を行うことで、目標達成に繋がられるようになっています。

新人の研修としては、採用前研修で基礎教育と臨床現場とのギャップの軽減を図るために、小児の基本的看護技術演習を実施しています。採用後は、オリエンテーションも含め、小児ならではの知識や技術獲得のため、講義や技術演習を勤務時間内に企画し、繰り返し受けることで、不安が軽減することを目的に実施しています。そのため、技術演習内容は、参加する新人の意見も参考にして、プログラムしています。

病棟配属後に処置やケアを行う際は、プリセプターや臨床指導者について見学をしてから、指導者と一緒に実施します。次に見守りの中で実施してみて、最終的には一人で実施できるようになるという段階を追っています。

新人の相談窓口は、プリセプターという実地指導者です。当院では、卒後3年目の看護師がこの役割を担っています。プリセプターは、準備研修やメンタル支援を兼ねたフォローアップ研修などの、院内研修に参加しています。又、「新人は病棟全体で育てる」ということから、新人に主に関わる各病棟の臨床指導者も、看護学生の教育カリキュラムや現代の若者気質を理解するための研修に参加しています。各病棟では、プリセプターミーティングを定期的に行い、新人とプリセプターが共に成長出来るように支援をし、離職防止に努めています。

このように、新人を迎えるために、受け入れ側の準備を整え、指導者も新人と共に成長していける教育プログラムを考えて、平成23年度も取り組んでいます。



（副看護部長 大澤通子）

産科病棟増築について



千葉県こども病院は、異常新生児に対する外科的対応を含めた高度な診療の機能を有していますが、分娩機能を有していないために出産前後の一貫した医療を提供できない現状にありました。そこで、千葉県こども病院に分娩機能を付加し、搬送リスクを回避して異常新生児の早期診断、分娩後、直ちに治療を施すなどのより効果的な治療を行うとともに母子分離に伴う母親の不安感を軽減します。増築部分は3階建て新病床21床で

1階：産科外来診察室、感染症診察室、陰圧室1床など
2階：母体・胎児集中治療管理室4床、母体管理病床9床など
3階：分娩室・蘇生室1室、分娩手術室1室、LDR1床、GCU6床（既存と合わせて21床）

*LDR：陣痛室、分娩室、回復室が一体となった部屋。
*GCU：新生児集中管理室退室後の管理病床

平成24年2月オープン予定となっています。



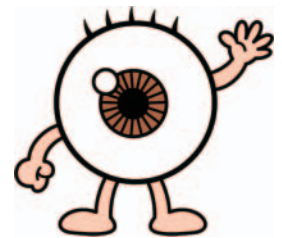
病院公開カンファレンス

登録医の先生方にご紹介いただいた患者様の経過の報告と各診療科からの情報提供の場として定期的にカンファレンスを行っています。今回は6月22日に院内で開催しました。このカンファレンスの抄録を以下にご紹介します。(次回開催日は10月26日(水)です)

1) 赤ちゃんの内斜視

眼科 磯辺真理子

赤ちゃんの目の異常は眼科ではなく健診やかかりつけで小児科の先生へ相談されることも多い。内斜視の原因は様々で先天内斜視のほかに調節性内斜視、器質的異常による感覚性内斜視、外転神経麻痺、デュアン症候群、被虐待などがある。鼻根部の皮膚により眼球結膜がかくれ、みかけ上内斜視に見える偽内斜視も多いがおかしいと感じたら「小さいうちは検査できない、自然に治るから3歳まで待つ」とは言わずに眼科へ紹介してほしい。



2) 小児がん経験者の長期合併症の管理 一般医家のご協力と長期フォローアップ体制の確立の重要性

血液腫瘍科 沖本由里

小児がんの治療成績の向上に伴い、進行固形腫瘍の50%以上、白血病・リンパ腫は70-80%以上が長期生存可能な時代を迎えた。現在20-30歳代の成人の700-1000人に一人は小児がん経験者であると推定されている。このような状況下で長期生存者の中には軽度から重度の合併症を残す場合があり、長期合併症の管理を行い正確なデータを収集する長期フォローアップセンターの設立が望まれる。また、日常の健康管理においては一般医家の協力が不可欠である。

3) 見逃してはならない小児整形外科疾患

整形外科 瀬川裕子

見逃してはいけない小児整形外科疾患として環軸椎回旋位固定、化膿性関節炎、先天性股関節脱臼を取り上げた。斜頸のうち、疼痛があるもの、1週間で改善しないものは、環軸椎回旋位固定を疑い専門医へ紹介するのが望ましい。四肢の症状、38.5度以上の発熱、CRP 2.0以上がある場合は化膿性関節炎で緊急手術が必要なことが多い。先天性股関節脱臼は、開排制限のない脱臼もあることに留意する。

4) 当院での在宅移行支援の現状について ～在宅人工呼吸器患児の移行支援を中心に～

小児救急総合診療科 高柳 正樹、看護部 上加世田 豊美

当院において行っている在宅医療は多岐にわたっている。今回は在宅人工呼吸器療法に移行した患者を中心に、当院で行っている支援活動を報告する。当院での在宅人工呼吸器療法に移行した患者数は2010年の半ばまでで合計54例である。在宅移行に際しては院内の医師、看護師、MSWのみならず、院外の在宅医療機関、訪問看護ステーション、地域の行政、呼吸器・酸素に関わる業者、警察・消防・電力会社など幅広い関係者の協力関係を構築することが必要である。

県民公開講座

皆さまに「こども病院」を知っていただくために開催します。ご参加をお待ちしております。

日時：10月2日(日)午後2時から

場所：千葉市文化センター5階セミナー室（千葉市中央区2-5-1千葉中央ツインビル2号館）

第1部 みんなで子どもを支えよう 第2部 東日本大震災災害派遣に参加して



すくすく通信

登録医の先生がたには“すくすく通信”と題した広報誌をお送りしていましたが、今回より広報誌“かるがも”と一緒に編集することになりました。このコーナーでは外科系、内科系の診療科を順にご紹介します。

形成外科

「すくすく通信」をご覧頂きありがとうございます。今日は形成外科について紹介させていただきます。診療科として形成外科を設置している病院は千葉県内では、まだ少ないですが、こども病院形成外科は県内の公立病院では、最も早く開設された形成外科です。病院の開院準備室時代から、宇田川晃一が赴任し、開院と同時に診療を始めました。以来20余年にわたり、口唇裂、口蓋裂、手足の先天疾患（手指、足趾）、耳介変形、漏斗胸、出べそなどを診療対象としています。また、脳神経外科と協同して治療する頭蓋骨早期癒合症などの稀な疾患の治療も手がけています。



鈴木 啓之

その後、2000年には宇田川初代医長が千葉大学へ異動し、後任として鈴木が赴任しました。それまでの実績を踏まえ、さらに口蓋裂患者の術前顎矯正治療を歯科の協力により開始し、漏斗胸手術への内視鏡の応用、頭蓋骨形成での骨延長手術等、新技術も導入しました。千葉市、県内の諸先生からのご紹介が中心ですが、東京都、茨城、埼玉、神奈川をはじめ、ときには関東以外の地域からも診療を希望される場合もあります。とはいえ、当科の医師数は開院来二人体制で、手術できる患者数も限界になってきておりました。そうしたとき、医師の増員がようやく認められ、大学から宇田川先生が部長としてこども病院に勤務して頂くことができました。形成外科の専門医が二人いる体制となりましたので、疾患の多様性も、手術件数も増加いたしました。また、形成外科学会の教育関連施設に認定されておりますので、毎年、若手の形成外科医が大学から研修に来ております。

宇田川部長、鈴木主任医長そして大学からの医師という体制で昨年2010年は、外来新患数476名。入院患者数275名の診療を行いました。口唇裂口蓋裂の手術が最も多くて88件、頭蓋、耳介、顎の先天異常が48件、手足の先天異常が48件でした。先天異常以外では、皮膚の良性腫瘍、血管腫などの治療を46件行っています。

小児の顔、手足指、その他身体外表の異常が見つかりましたら、こども病院形成外科へ、ご相談ください。

アレルギー・膠原病科

アレルギー・膠原病科では、①アレルギー（気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など）、②リウマチ・膠原病（若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、自己炎症疾患など）、③免疫不全症（重症複合型免疫不全症、先天性無ガンマグロブリン血症など）のこども達の診療を行っています。

患者さんの7割はアレルギー疾患で、なかでも気管支喘息が最も多いのですが、最近は食物アレルギーの患者さんが増えています。これまで食物アレルギーに対しては、原因食物を除去して自然に治るのを待つという消極的な治療しかありませんでした。ところが最近、ごく少量から徐々に食べさせると、やがて通常量を食べても症状が出なくなることがわかりました。この経口免疫療法（経口減感作療法）は、治療中に強いアレルギー症状が起きる可能性がある危険な治療法です。また、全員に有効なわけではありません。しかし、治癒を期待できる治療法ですので、当科でも22年度から千葉大小児科、下志津病院小児科と共同で経口免疫療法の臨床研究を開始しました。現時点では卵アレルギーに対して、よい結果を得ています。今後はさらに食物アレルギーの診療に力を入れていきたいと考えています。

なお、今年4月に富板医師が千葉大学小児科から赴任しました。富板医師は、小児リウマチ・膠原病の分野で、学会でも指導的立場で活躍している経験豊富な医師です。スタッフもさらに充実しましたので、整形外科、腎臓科、眼科などの先生方の協力のもと、これまで以上にリウマチ・膠原病の診療に力を入れていきたいと考えています。また、科の名称をアレルギー科からアレルギー・膠原病科に変更しました。

アレルギー、リウマチ・膠原病、免疫不全のことで困ったことがあったら、どうぞご相談ください。スタッフは星岡 明、富板美奈子、山出晶子、加藤いづみの4名です。よろしく願いいたします。



星岡 明

遺伝カウンセラー

4月からこども・家族支援室に所属しております、遺伝カウンセラーの岡田千穂と申します。

患者さんやご家族の遺伝や遺伝性疾患にかかわる不安や悩み、思いを傾聴したり、医師の説明後に改めて理解度の確認や補助を行い、それをフィードバックして医師や看護師の方々と協力して支援をしていきたいと考えております。

医療資格はありませんが、患者さんやご家族の立場からサポートできればと思います。よろしく願いいたします。



岡田 千穂

夏 祭 り



例年、夏と冬には1階ロビーで夏祭り、クリスマス会を開催しています。今年も7月1日 恒例の夏祭り（七夕会）を開催しました。会場には各部署で飾られた七夕飾りが大集合！その脇には魚釣り・ヨーヨー釣り・ボーリング・輪投げのゲームコーナーが設置され、お目当ての景品を手に入れて大満足の子、あきらめきれずに何度もチャレンジする子など

皆ゲームに夢中・・・会場はこども達やご家族の笑声と活気で満ちあふれ、夏の午後の楽しいひと時を過ごしました。（お楽しみ委員会）